



理事長
上 昌広
NPO法人医療ガバナンス研究所



かみ・まさひろ。1968年兵庫県生まれ。東京大学医学部卒業、93年東京大学医学部附属病院内科研修医、95年都立駒込病院血液内科医員、99年東京大学大学院医学系研究科修了。虎の門病院血液内科医員、国立がんセンター中央病院薬物療法医員などを経て10年7月より東大医科学研究所特任教授。16年4月から現職。

スマホを使いこなし情報処理を

「どうしたら、情報を効率よく処理できますか」—山本佳奈医師から質問を受けた。

彼女は、唯一の常勤内科医が退職した大町病院（南相馬市）をサポートするため、9月に南相馬市立総合病院から出向した。現在、約20人の入院患者を担当しながら、週に8コマの外来をこなしている。診療のための勉強はもちろん、私どものチームの一員として、多くの研究活動に参加している。彼女の日常は多忙だ。

私のチームには約60人が参加しているが、私はチームを運営する上で、情報共有を重視している。毎日、多くの情報がメール、フェイスブックメッセージ、LINEなどで配信される。チーム全体に送られるものもあれば、プロジェクトごとの連絡事項まで、取り扱う情報は雑多だ。私が山本医師にいったのは、「スマホを酷使し、外来などの隙間時間に処理すること」だ。

メールはGメールを使い、スマホアプリである「inbox」で処理すればいい。グループ内のメーリングリストでのやりとりの多くは、山本医師に直接は関係がない。CCやBCCで送られるメールも同様だ。ただ、彼女が私たちのグループの一員である以上、全体の流れを把握しておくことは重要だ。

山本医師は貧血を研究している。Googleアラートに「貧血」などのキーワードを登録している。「inbox」を使えば、メール一覧画面で、その概要が表示される。画像ファイルや動画サイトをリンクしている場合も同様だ。メールを開けずとも概要が理解できる。自分と無関係なら、右スワイプしてアーカイブすればいい。

もし、処理が必要なメールが来たら、どうすればいいだろう。私はエバーノートに転送することにしていて。エバーノートでは、プラス版やプレミアム版の利用者に対して、「エバーノート転送用メールアドレス」がデフォル

トで準備されている。「アカウント」「設定」とクリックすると分かるようになっている。

こうすることで、私はGメールをフロー情報の処理、エバーノートをストック情報の処理に使い分けている。アイデアやメモ書きを保管するのもエバーノートだ。スマホアプリの「FastEver」を利用すれば、入力をそのままエバーノートに転送できる。音声入力を使いこなせば、かなりの長文でもメモできる。また、画像や写真は「FE Snap」を使えばいい。こうやって、自分独自のデータベースができる。Gメールと違い、広告やメールアラート、メーリングリスト、さらに単なる「報連相」のメールなど雑音は含まれない。

ただ、普段、もっとも利用しているアプリは、フェイスブックメッセージだ。なによりも操作性がいい。特に、スマホで読んだニュースや論文などをスクリーンショットで送れるのは便利だ。

情報共有グループの作成が容易で、かつ誰が既読かが分かる。グループ内の「閲覧板」として機能する。ところが、フェイスブックメッセージにも問題はある。それは検索機能だ。現バージョンでは、過去のやりとりを検索できない。このため、データベースとしては使えない。写真、画像、有用なサイトをシェアするフロー情報専用のアプリである。

若手医師は、膨大な情報を処理しなければならないし、膨大な情報に触れなければ、自らの頭は整理されない。一方、落ち着いて本を読むことも重要だ。世間では二者択一の議論が横行しているが、そんなことはない。むしろ、じっくりと本を読み、自ら考える時間を作るためには、日常情報は、その場で、できるだけ短時間に処理すべきだ。そのためにスマホは便利だ。若手医師の成長は、スマホを使いこなせるか、否かにかかっている。